

2025年 女子学院 算数

過去3年の思考コード別出題割合は次のようになります。知識・技術の正確な運用が求められるAの問題、論理的思考力が求められるBの問題が出題されています。2024年までは問題・解答用紙が一体でしたが、2025年は問題・解答用紙が別々となっていました。例年通り大問7題構成で、バラエティ豊かな問題が並びます。試験時間40分で全てを解き切るのは至難の業です。問題用紙1枚目はできるだけ素早く済ませ、2枚以降で時間を書けるべき問題を見極めます。テキパキ処理する力、じっくり取り組むべき問題を瞬時に判断する力は欠かせません。



大問1は、例年通り計算、一行題の構成でした。(1)の逆算は、手間がかかりますが、確実に処理しておきたいです。(2)はJG頻出の求角の問題でした。角ウで手が止まった受験生もいたと思います。辺が等しい部分をくっつけて二等辺三角形を作ります。(3)は和と差を利用した整数の問題でした。①がなくても②が解けるようにしたいです。(4)は積み上げた積み木の個数を求める問題です。類題に取り組んだことのある受験生もたくさんいたと思います。(5)は等積変形を利用して面積を求めます。ここまでは落ち着いて処理して確実に得点しておきたいです。

大問2は、日暦算でした。(1)をまちがえると(2)に影響します。素早く正確に計算処理をしたいです。(2)はつるかめ算を利用して求めることができます。(1)、(2)どちらも確実に得点しておきたい問題と言えます。大問3は、水そうグラフの問題でした。立体の表面積が示されているので、(1)立体のL字部分に注目して底面積を求めます。(2)は(1)で体積がわかれば求められます。(3)は差がついたと思います。水そうの空き部分に入れる水の量に注目することで、つるかめ算を利用することができます。

大問4は、分数列の問題でした。2025年にあわせて、分母が2025となっています。(1)が少し大変だったと思います。(1)が求められれば、(2)、(3)は典型的な問題となります(2025の約数を頭に入れていた受験生も多かったと思います)。大問5は、正十二角形と円を組み合わせた平面図形の問題でした。(1)は円の半径が直接求められないので、対角線の2乗を利用します。(2)は「30度の三角形(正三角形の半分)」を利用します。(1)、(2)どちらも得点しておきたいです。大問5は、速さの問題でした。ここで時間を使い果たしてしまい、大問7の食塩水に手が出なかった受験生も多かったと思います。無理して大問7に取り組むより、大問6までしっかり取り組む方が賢明だと思います。

40分間をフル活用するためには、素早い判断力、高度な処理能力は必須となります。大問1(1)~(4)、大問2、大問3(1)、(2)、大問4、大問5、大問6(1)をしっかり取って、大問7を除く残りの部分でどれだけ取れたかで差がついたと思います。